

## 令和6年度 租税教育活動プレゼンテーション一覧

### <最優秀賞>

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
東 京	○立川（東京） ○小学6年生 中学3年生 ○53校 約4,000名	<p><b>【租税教室：シン・立川モデル～新たな挑戦～】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「均一性・継続性・網羅性」を理念に掲げ、講師によってバラツキのない授業を継続的に管内全ての小学校での開催を目標に活動。立川モデルとして2010年の栃木大会で最優秀賞の評価を頂き、累計70,424人が受講（～令和5年度）。</li> <li>・【立川モデル長年の課題】租税教室で得た知識を忘れず、税金への理解性を向上させるには、アフターケアが必須。</li> <li>・【シン・立川モデルで心の中に租税教室を】授業の記憶を定着化させるアイテムとして1万円札の大きさのメモ用紙が100枚入った「100万円メモ」を児童に提供。メモの蓋に表示したQRコードから、租税教室の動画や税金に関するクイズ、各税目をそれぞれ関連する職業の部会員が解説した動画などを提供。コンテンツは定期的に更新予定。</li> <li>・【「覚える」より「忘れない」モデルへの発展】従来の理念に「理解性・反復性」を加え5つの柱を新たに掲げた進化系「シン立川モデル」として今後も活動を進めたい。</li> </ul>

### <優 秀 賞>

\*掲載順番は局連順です

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
福 岡	○久留米（福岡） ○小学6年生 ○8校 230名	<p><b>【税金は未来への贈り物】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで『マリンとヤマトの不思議な日曜日』を活用した租税教室を開催してきたが、ワークショップ形式の授業を新たに加え、2コマ授業での新たな租税教室を展開した。</li> <li>・従来は講義形式のみであり、私たちの町や暮らしにおいて“税金の必要性”を理解するとの内容だった。</li> <li>・これに対して、子どもたち一人ひとりの自由な発想を引き出す手法としてワークショップ形式を加えることで、税金は未来への投資、ワクワクする未来を創造するための贈り物、といった税金と未来を掛け合わせながら創造していく内容とした。</li> <li>・子どもたちが、これまでよりも税金のイメージをよりポジティブに捉えながら学ぶ新しい租税教室が構築できた。</li> </ul>

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
熊 本	○熊本（熊本） ○熊本市内 小学4～6年生 ○先着35名 （超えた場合抽選）	<b>【夏休み租税教室 みんなで学ぼう zei（税）】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・租税教室のテーマとして、子ども達が税は大切なものであると知ることはもちろん、さらに将来社会人になる為の予習にもなる租税教室にしたいと考えた。</li> <li>・幸運なことに素晴らしい教材に出会うことができた。それが、ライフリテラシー社が開発したボードゲーム「ライフリテラシーゲーム」であった。</li> <li>・今回の発表ではライフリテラシーゲームをメインとした社会人の疑似体験から子どもたちの社会と税金の勉強の様子をお伝えしたい。</li> </ul>

### <奨 励 賞>

\*掲載順番は局連順です

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
東 京	○相模原（神奈川） ○老若男女 ○年間1,000名 程度	<b>【ワクワク！！税金体操第一】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「法人会の目指す租税教育とはなにか」、「子どもたちが好きなことはなにか」等を議論し、平成28年に「アタマでなくカラダで学ぼう」をコンセプトとして「税金はなぜあるのか？」「納税とはなにか？」「税金は何に使われているのか？」をわかりやすく歌詞にした「ワクワク！！税金体操第一」が完成。</li> <li>・この「ワクワク！！税金体操第一」は地域の催事やイベントのブース、ステージ、パレードにて実施、老若男女問わず体を動かし、子供については学びを、大人には納税意識の高揚を促している。</li> </ul>
関 東 信 越	○鹿沼日光 （栃木） ○中学生 ○筆記予選ステージ 96名 決勝ステージ 26名	<b>【税金ウルトラクイズ】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「租税教室」は、受動的な租税教育活動であり、税への理解と関心を育むために“子供たちが積極的に自ら学ぶ”方法として、当青年部会では、これまで地域イベント会場で税金クイズを実施してきた。更に、子供たちが能動的に学び、税の大切さを実感できる活動を行い、租税教育活動の質の向上を図るため「税金ウルトラクイズ」を実施。</li> <li>・参加は、中学生3人1組とし、まず「筆記予選ステージ」をタブレット配信による税金クイズ30問に挑戦、成績上位10チームが「決勝ステージ」に進出、決勝会場において、クイズ10問のファーストステージ、成績上位3チームによるファイナルステージを行い、優勝チームを決定。</li> <li>・優勝チームへの賞品として、後日地元市長へ直接「税金でみんなのために叶えたい夢」について要望を行った。</li> </ul>

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
札 幌	○室蘭地方 （北海道）  ○小学6年生  ○7クラス 194名	<b>【10年先を見据えた、若い講師の育成 ～やるなら今しかねえ～】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年6月23日に「北海道法人会青年の集い 室蘭大会」を主管し、成功裏に終えることが出来た。また、大会の運営に際し、会員拡大にも成功した。</li> <li>・その一方で、租税教室の講師はまだ不足しており、今後の活動に対して、大きな課題が残っている。</li> <li>・会員が増えた今こそ、今後につなげていくべく、租税教室の講師の育成が急務である。地方都市にあって、獲得した“人財”を積極活用し生かしていくのは、このタイミングしかない。</li> <li>・地域性にマッチしたオリジナルの租税教室プログラムを作成すると共に、後任講師の育成に全力で取り組んだ。</li> </ul>
仙 台	○能代（秋田）  ○小学6年生  ○3クラス 47名	<b>【租税教室「思いやりにあふれた社会の実現に向けて」】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震、水害等災害の事例を交え「自助・共助・公助」について説明。公助には税金が使われるが限界があること、自助・共助により初動が早く被害を少なくすることなど、税金が使われる部分を多角的に感じてもらうように工夫。</li> <li>・グループワークを通して税金に対する考えを共有するとともに、受容性を育む機会を提供。</li> <li>・ささえ愛メッセージツリーに、大切な人へのメッセージ、願いごと、目標を記入してもらい、税金の大切さを育ててもらうように工夫。地元商業施設へ展示して租税教育の広報活動を行い、一般市民等広く社会に周知。</li> </ul>
名古屋	○東三河（愛知）  ○小学4～6年生 中学1～3年生  ○18校43クラス 1,304名	<b>【チャレンジ100～誰もが参加できる租税教育を目指して～】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2001年に誕生した「税金クイズ」を23年間継続して実施。誕生から現在までの取組みを発表。</li> <li>・応募数・応募率を上げる工夫や努力、4市（豊橋市・豊川市・蒲郡市・田原市）の教育委員会と税務署の協力を得て問題を作成する過程など、先輩たちが築いてきた長年の歴史を時代に合わせて、変化させながら継続。</li> <li>・3県横断税務広報として、毎年「税を考える週間」に合わせて愛知県連主催の税務広報に3県が連携した事業を実施。</li> <li>・2013年から租税教室を実施し、毎年平均35コマを担当。メンバーごとに工夫を凝らしたオリジナル租税教室。親子で参加できる租税教室を、愛知県連広報大使「佐藤なおみ氏」と豊橋税務署の方にも参加いただき開催。</li> </ul>

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
金 沢	○魚津（富山） ○小学6年生 ○28校31クラス 996名	<b>【SOZEI Sustainable!「今までもこれからも継続的發展を！」】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の3本柱「地域連携」「実施率向上」「会員増強」を同時に実施し、好循環＝グッドサイクルをまわし、実施率100%を目指す</li> <li>・授業参観で租税教室を実施することによる地域や保護者への認知度アップ</li> <li>・新人が誰でもすぐに講師ができるような秘伝のパワーポイントと体制づくり</li> <li>・講師は子どもの親や出身校である地元を担当し、部会員増強にもつなげる</li> <li>・継続可能で無理のない「基本的だけど」「多面的な厚みのある」の取り組み</li> <li>・開始当初に先輩方が作成したパワーポイントのデータ内容をアップデートしながら継続して使用（サステイナブル）</li> </ul>
広 島	○倉敷（岡山） ○管内小学校（37校）の生徒／小・中学生 ○90クラス 2,825名 ／約150名	<b>【税によって助けられた西日本豪雨災害からの復旧・復興、そして、その伝承】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当会エリアには西日本豪雨災害(平成30年7月発生)で甚大な被害を受けた真備地区がある。同災害の復旧・復興に向け各方面から多大な支援を受けており、税もその一つ。</li> <li>・そこで地域の子供たちに対する租税教室の中で、災害と税の関わり合い教えることを計画。コロナ禍のため開催もままならない状況もあったが、現在は租税教室が再開。</li> <li>・しかし、新たな課題として「防災意識」等の低下が浮上。時が経つにつれ子供だけでなく地域の大人も被災時の記憶が徐々に薄れていることを、肌身を通して実感。</li> <li>・租税教室を受けている目の前の児童だけでなく、将来の子供たちに、災害の状況、税等に支えられた復旧等を確実に、広く伝承するため、現在動画を作成しており、近々YouTube等で公開できる予定。</li> <li>・被災時に法人会をはじめ多くの方々から暖かいご支援をいただいたことから、そのお礼もお伝えしたい。</li> </ul>
高 松	○幡多（高知） ○小学5・6年生 中学3年生 ○小学校15校 339名 中学校5校 144名	<b>【未来へ紡ぐ-知識と活動-】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子ども達の成長」と「青年経済人としての成長」を目標に活動に取り組む中、租税教室の開催件数の増加に伴い、講師不足という課題が浮上。</li> <li>・講師不足の解消を図るために、再度メンバーと向き合い、課題の本質を突き詰めていく中で、参加はしたいが「講師へのハードル」が高いこと、そのハードルとは「現時点で面白いとされている講師の個性」など、技術や抜きんできた個の能力であることが判明。</li> <li>・地域の一人でも多くの子供達に伝え、自らが考えられるような授業になることを目指す「持続可能な租税教育」。</li> </ul>